

もろ つよし 剛 茂呂つよし県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

東葉高速鉄道6期連続黒字

「運賃引き下げるべき」

12月県議会一般質問



本会議で登壇し、一般質問を行う茂呂剛県議

ふるさと八千代を住みよく安心安全な街にと、市民の声に耳を傾け、政策の実現に力を注いでいる茂呂剛(もろ・つよし)県議は12月定例県議会一般質問を行い、東葉高速鉄道の高額運賃問題、地震被災者への支援、道路問題などを取り上げた。

森田知事ら県執行部に現状と対策を質問しました。地震被災者への支援では、八千代市薬剤師会が県内で初めて導入する走る薬局「モバイルファーマシー」の活用を県に要望しました。茂呂県議の質疑と県当局の答弁を特集します。

県答弁 低金利で利息支払いが減少 まず会社の経営維持が優先

茂呂議員 東葉高速鉄道株式会社は、平成8年開業以来、今年はずっと20周年という節目の年。八千代市、船橋市の発展及び都心アクセスの向上を目的に、西船橋駅と勝田台を結ぶ路線として開業したが、建設に多くの年月を要したことや、日本鉄道建設公団、民鉄線方式、いわゆるP線方式で建設されたため、多額の有利子負債を抱え、開業当初から経営がひっ迫する状態となった。

このため、県、八千代市、船橋市の各自自治体や国などの関係機関が対応を協議した結果、平成8年に第1次支援策が、平成10年度には第2次支援策がまとめられ、債務の償還期限の延長や自治体等による多額の出資による支援が行われてきた。

その後、東葉高速鉄道の沿線では、順調に宅地開発が進み、輸送人員、運輸収入も着実に増加してきたことから、会社は平成22年度に初めて黒字決算を達成し、昨年度まで6期連続で黒字決算になっている。

このように、関係機関による支援と沿線開発の進展により、会社の経営状況は好転してきたが、一方で、経営がひっ迫していた開業当初に設定された高額な運賃体系は変わっていない。

高額な運賃は沿線住民の家計を圧迫するとともに、沿線都市の魅力を損なうものであり、可能であるならば黒字となった会社の利益により、運賃を引き下げるべきと考える。

しかしながら、東葉高速鉄道は未だに約2700億円もの長期債務を抱えており、この債務の元本償還と金利の支払いが経営上のリスクとなっている。

第2次支援策としての自治体等による出資は、現在の取り決めでは平成28年度までどうかかかっているが、この長期債務のリスクがある限り、更なる支援が必要となる可能性がぬぐい切れない。

そこでうかがうが、東葉高速鉄道は黒字経営が続いているが、なぜ運賃の値下げは必要であると考えています。

東葉高速への支援 委員会開催し協議

茂呂議員 東葉高速鉄道に対する今後の支援について、どのように考えているのか。

総合企画部長 東葉高速鉄道に対しては、現在、第2次支援策として、沿線の船橋市、八千代市及び東京地下鉄株式会社とともに、総額300億円の出資を、平成19年度から本年度まで行っているところです。

来年度以降の支援については、今後、国や鉄道・運輸機構を含めた関係者による、「東葉高速自立支援委員会」を開催し、協議していく予定です。

県としても、この委員会の設の更新状況や金利動向等を十分に踏まえながら、必要な対応を検討してまいります。

きないのか。

総合企画部長 東葉高速鉄道は、鉄道・運輸機構に対し、依然として約2700億円という多額の長期債務を抱えており、今後の金利動向によって経営が左右される不安定な状況が続いています。

確かに、東葉高速鉄道の決算は6期連続で黒字となっており、昨年度には約18億円の純利益を上げていますが、これは近年まれにみる低金利が続いていることによる支払利息額の減少が寄与したものと考えています。

したがって、県としては、まずは会社の経営維持を優先し、長期債務の縮減や利子負担の軽減措置により、財務体質を改善することが必要であると考えています。

茂呂つよし・PROFILE

略歴

- 1968年 八千代市に生まれる
- 1987年 八千代松陰高校卒業
- 1992年 秀明大学卒業
- 1992年 イワキ(株)勤務
- 2006年 八千代市議会議員当選
- 2010年 八千代市議会議員再選
- 2014年 第36代八千代市議会副議長
- 2015年 千葉県議会選挙当選

現職

- 県議会 環境生活警察常任委員会副委員長
- 議会運営委員会委員

●県政に関するご相談を気軽にどうぞ

茂呂つよし 県議事務所 276-0046 八千代市大和田新田1092-7
TEL 047-480-0244 FAX

移動薬局「モバイルファーマシー」

八千代市薬剤師会導入 災害対策へ県は活用を



議場の自席で県執行部に要望を行う茂呂剛県議

関係機関との協議が開始されたとうかがっています。県としては、この協議結果などを踏まえ、必要に応じてモバイルファーマシーが有効活用されるよう、関係機関とともに検討してまいります。

要望 茂呂議員
モバイルファーマシーの配

茂呂議員
県が発表した千葉県地震被害想定調査結果によると、千葉県北西部で最大震度6強の直下型地震が発生した場合、約80万人の避難者が見込まれており、千葉県でも多くの災害関連死が生じる恐れがあるなど、被災者の健康管理が重要になってくる。

千葉県が被災した際に、災害関連死を防ぐなど被災者の健康管理を図っていくためには、市町村や保健所

の保健師等が速やかに支援できるように、その体制を整えておくことが重要であると考えます。

そこだろうかすが、薬局の機能を備えた災害対策の医薬品供給車両であるモバイルファーマシーを八千代市薬剤師会が配備するが、県も活用方法をともに考えるべきと思っております。

保健医療担当部長 モバイルファーマシーは、避難所などにおいて、慢性疾患を抱える患者への調剤業務や、体調不良の被災者に薬を提供するなど、災害時に有用なものであると認識しています。通常時は当該車両での調剤業務が行えないなどの課題もあります。

今般、八千代市薬剤師会が県内で初めてモバイルファーマシーを配備することとし、今後の運用について、

県道船橋印西線八千代西高入口前

渋滞交差点の改良検討

茂呂議員 道路問題についてうかがう。県道船橋印西線の八千代西高校入口交差点の道路整備についてどう考えるのか。

ど、地域の経済活動を支える重要な道路です。しかしながら、朝夕の通勤時間帯には、交通集中による渋滞が発生している状況です。

県土整備部長 八千代市内の県道船橋印西線は、国道296号と国道16号を結び、沿線には、大型工業団地や商業施設が立地するな

特に、八千代西高校入口の交差点では、右折車線がなく、また、歩道の溜まり空間もないことから、円滑な交通、あるいは歩行者の

保育所の調理員 待遇改善が必要

も、その活用方法を前向きに考えて頂けるよう要望する。

ている調理員の処遇を改善すべきと考えるがどうか。健康福祉部長 保育所等で働く調理員については、設置認可に関する基準において、児童の定員に対する配置人数等を定めているところですが、子どもたちの発育状況等に配慮した、安心安全な食事の提供が求められています。

保育現場においては、献立作成から、調理、配膳に至るまで、細心の注意を払う必要があり、対応する職員の役割は大変重要で、県としては、調理員の配置や食物アレルギーへの対応状況等を調査するなど、実態を把握した上で、必要な対応を検討してまいります。

要望 茂呂議員 保育の現場では、調理員も子供の成長に深く関わっている。子供たちの安心安全を担う重要な役割を果たす

茂呂議員 福祉政策についてうかがう。保育所等において、子どもたちの食事に関し、安心安全の確保に対応する重要な役割を担っ

の整合を図りながら、早期に交差点改良に着手できるように、検討を進めてまいります。

安全確保に支障をきたしている状況です。これまでに、交差点の交通量把握など、基礎的な調査を実施したところであり、近接する河川事業と

東習志野地先交差点までの60区画

八千代台花輪線と二体整備要望

茂呂議員 都市計画道路八千代台花輪線の事業

区域南側から東習志野地先の交差点までの整備を

ためには、現在の保育所の公定価格による給付費では賄えない。実態にあった人員配置ができるよう必要な支援を国に働きかけていただきたい。

アライグマなどの小型獣 被害、都市部に拡大

茂呂議員 県内、特に都市部における小型の野生獣による生活被害について、県はどのように認識しているのか。

環境生活部長 本年3月に、県内全54市町村を対象に小型の野生獣による生活被害に関するアンケート調査を行ったところ、アライグマは35市町村、ハクビシンは52市町村から、住宅への侵入や糞尿などの生活被害があった旨の回答がありました。

このうち、千葉、葛南、東葛地区などの都市部では、相談件数が増加しており、

捕獲用わな貸出し 茂呂議員 県は小型の野生獣による被害に対し、どのように対応しているのか。環境生活部長 外来種のうち生態系などに被害を及ぼすものとして指定された特定外来生物であるアライグマについては、45市町村に対し1155基の捕獲用わなを貸し出すとともに、県猟友会に委託し、捕獲したアライグマの処分を行っています。

どのように考えているのか。

県土整備部長 都市計画道路八千代台花輪線の事業を行っている区域南側から東習志野地先の交差点までの約60区画については、歩道が未整備であり、また、交差点の右折レーンが短いことから、朝夕には渋滞が発生し、道路拡幅等の整備が必要と認識しているところ

この区間は、習志野市と千葉市の市境域に位置していることから、事業手法等

野地先の交差点までの約60区画間は、都市計画決定されておらず、街路事業が困難というところは、分けるが、渋滞解消や安全確保の整備効果を発揮させるため、現在整備している八千代台花輪線と、一体的に整備することを要望する。